

IFRS 財団評議員会 戦略見直し報告書(概要)

○国際会計基準(IFRS)財団 評議員会は、IFRS 財団の将来戦略の方向性を見直し(Strategy Review)に関する最終報告書を、2012年2月9日に公表。

○戦略見直しの目的は、国際的に認められる単一で高品質な会計基準の設定という目標を達成する際の指針とするために、戦略の方向性を見直すというもの。

○最終報告書の概要は、以下のとおり。

- ・ IFRS 財団設立後の 10 年間で、IFRS は多くの国で受け入れられる国際的な基準となった。
- ・ 次の 10 年では、IFRS が高品質の基準であり続け、かつ適切に適用されること、基準設定主体としての説明責任とガバナンスを確保すること、が課題。
- ・ IFRS 財団の戦略について、ミッション、ガバナンス、プロセス、財政問題の 4 つの視点から見直しを提言。

① ミッション

－IFRS 財団が達成すべき公益の定義づけ。

② ガバナンス

－基準設定主体の独立性と説明責任のバランス確保。

③ プロセス

－高品質で、資本市場で十分に機能し、世界各国で統合的に使用されるような基準設定プロセスの構築。

④ 財政

－財団の効果的・効率的・独立の業務運営を可能とする資金調達手段の確保。